

自分の仕事を全うしリタイアした後に、未知の国で自分の経験を生かそうとするエネルギー。未来ある若者達。大志を抱き、悩み 闘ってほしいものです。

# 「大切な人と出会えた」

## JICAボランティアの2人

### 国際理解講座 異文化体験語る

#### 穂 赤

国際協力機構（JICA）の海外ボランティアで2年間、タイに赴任した筒井康世さん（75）と宝塚市とパプアニューギニアで過ごした村原健三さん（70）同

西宮市社会福祉協議会に

20年間勤めた筒井さんは2008年からタイ東北部の保健センターに赴任し、高齢者の健康促進活動に取り組んだ。講座では、現地で指導した健康体操を会場の人と体を動かして実践。「タイの人の笑顔が力になった。大切な人たちと出会えた。大切な人たちがいない2年間。たかけがえのない2年間。海外ボランティアに行つて本当に良かった」と感慨を込めた。

村原さんは県養父土木事務所長を務めるなど技術職として35年間、県に勤務。定年退職後、専門学校で日本語教師の資格を取り、15年からパプアニューギニア首都の国立大学で学生に教えた。貧困による犯罪を目的に当たりししながら、情熱ある学生から多くを学んだと



写真展と講演で異文化体験を伝えた村原健三さん（右）と筒井康世さん（左）と赤穂市立図書館

いい、「大自然や多様な文化が魅力的だった。資源に恵まれ、発展する潜在力は高い。平和で豊かな社会に」と願った。（坂本 勝）

9月1日 神戸新聞分